

着

mono通信

yoroduya

2022・5 vol.44



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL:0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは！私の大好きな5月になりました！田んぼに水が張り、カエルの大合唱にテレビの音がかき消されてもこの爽やかな季節が本当に大好きです。散歩に出かけても暑くもなく寒くもなく、新緑が目にも優しい、なんて健康的な季節でしょう。そんな5月の和名は「皐月」ですが、早苗を植える頃の月という意味で、「早月(さつき)」とも言われます。「早苗月(さなえつき)」と言っていたのが短くなったそうです。「皐」の字は音読みで「コウ」訓読みで「さわ」と読みますが、この漢字単独で読むことはあまりないようです。書くのも難しいですね。また、「皐」という字には、「神に捧げる稲」という意味があるようです。そういえば稲のようにも見えますね。唱歌の「夏は来ぬ」の歌詞がぴったりな皐月。最近では気温が高くなる日もありますので、単衣の準備も始めてみてはいかがでしょうか。今月も爽やかに頑張ります！！

<2年ぶりの開催！東京キモノショー2022>



「東京キモノショー2022」開催！

2022年5月28日(土)、29日(日)の2日間、日本橋人形町問屋街界隈にて「東京キモノショー2022」が開催されます。

今年のテーマは、「きものもつチカラ」。

そして、「街への広がり 街がランウェイになる」をサブテーマに、メイン3会場 & サテライト7会場で行うということです。

- 人気店から若手クリエイターのトライアルショップまで、きものに関する新商品が並ぶ「和マルシェ」(会場・プラザマーム)。
 - ファッションショーやトークショーなどが楽しめるステージ(会場・プラザマーム)。
 - 様々な着物のコーディネートが並ぶ「キモノスタイル展」(会場・サンライズビル)
 - 小笠原流煎茶道、遠州流茶道、茶道松尾流の3流派によるお茶会。(会場・プラザマーム)
 - 水引や絹糸で作るアクセサリーづくりや、KICCAのパーソナルカラー診断などができるワークショップ(会場・田源ビル)。
- などをメイン3会場で行います。

コロナ禍でやむなく中止せざるを得なかった2020年から2年。新たなコンテンツで復活した、「東京キモノショー2022」にぜひおでかけください！

□□日時:2022年5月28日(土)、29日(日)
10:00~18:00

□□会場:
サンライズビル
東京都中央区日本橋富沢町11-12
プラザマーム
東京都中央区日本橋浜町1-1-12
田源ビル
東京都中央区日本橋堀留町2-3-8
その他、サテライト会場7会場

□□入場料:
前売り1,000円、当日1,500円
(メイン3会場のみ入場券が必要です)

デジタルガイドブック↓



公式ホームページ



ガイドブックは当店にて配布しております。チケットに関してもお気軽にお問合せください。

< よろづ屋 きものがたり～置賜紬(おいたまつむぎ)～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものにまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第17回目は、為せば成る上杉鷹山が推奨した置賜紬

為せば成る 為さ
ねば成らぬ 何事も
成らぬは人の 為
さぬなりけり



置賜紬(おいたまつむぎ)は、山形県の南部、置賜地方にある米沢、白鷹、長井の地区で作られている織物です。江戸時代初めより、織物の原料である青苧(あおそ)の生産地として出荷を行っていた置賜地方は、江戸時代後期には自給自足による織物の産地を目指しました。その後、青苧に代わり桑による養蚕が盛んになったことで絹織物の産地へと変化を遂げるとともに、本格的に地場産業として発達していった工芸品です。置賜紬の特徴は、米沢、白鷹、長井の3つの地それぞれで受け継がれた技術や技法が異なる点です。米沢は、県花の紅花や藍、刈安(かりやす)など



自然の染料を用いた「草木染紬」や「紅花染紬」、白鷹は、国内ではここでしか見られない貴重な「板締(いたじめ)染色技法」、長井は、「緯総(よこそう)紺」と「経緯併用(たてよこへいよう)紺」、琉球織物の影響を強く受けている「米琉紺(よねりゆうかすり)」という技法が受け継がれてきました。それぞれ工程は違いますが、いずれも先に糸を染める先染めを取り入れ、平織りで手間をかけ織り上げるといった共通点があります。



米沢では、江戸時代初期にすでに青苧や紅花などが栽培されていました。1601年(慶長6年)、米沢藩主の上杉景勝は、これらを特産物として奨励し、織物の原料として越後などに出荷しました。その後の江戸時代中期、第9代藩主の上杉鷹山は、自給自足の織物産地を目指しました。1776年(安永5年)には越後より職人を迎え、織物の研究を進めるとともに女子に技術の習得をさせたのが置賜紬の始まりです。当初は、青苧が原料の麻織物が生産されていましたが、上杉鷹山の藩政改革によって養蚕が盛んになると、徐々に絹織物へと移り変わっていきました。さらに明治時代に入ると、米沢に近く養蚕が盛んであった白鷹、長井でも織物が作られるようになり、紺(かすり)の高度な技術を習得していきます。

大正時代から昭和初期にかけて、米琉紺や板締小紺(いたじめこがすり)が全国的に知られるまでに発展しました。その後、1976年(昭和51年)に、3地域合わせて「置賜紬」と統一する運びとなり、米沢の「草木染」、長井の「緯総紺・経緯併用紺」、白鷹の「板締小紺」が置賜紬と定義づけられました。

< 重要なお知らせ >

たいへん申し訳ありません。当店で取り扱い中の「たかはしきもの工房」の一部商品が値上がりします。

値上げ商品一例(価格は全て税抜き価格です)

満点肌着	8,000円→11,000円
くノ一麻子	18,000円→20,000円
くノ一涼子	9,800円→11,000円
満点ガードル裾よけ	12,000円→14,000円
PutonキモノプラM・L・LL	7,300円→9,000円
うそつき衿(塩瀬)	4,400円→5,800円



詳しい値上げ商品については当店スタッフまでお問い合わせください。5月20日までにご注文の場合は、旧価格で対応いたします。

いわき店で開催のフィッティング会がチャンスです！！

いわき店 たかはしきもの工房フィッティング会

5月12日(木)～5月14日(土)

※12日、13日はアドバイザー来店

※予約の方優先とさせていただきます

今月のおススメ！

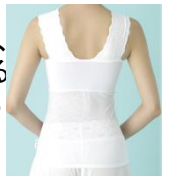


たかはしきもの工房

くノ一涼子

10,780円(税込)

今回おススメの商品は、「たかはしきもの工房」のタンクトップ型の和装ブラジャー「くノ一涼子」です。私の毎日の着物生活に欠かせない愛してやまない肌着の一つで、私が「たかはしきもの工房」の商品のとりこになったきっかけの一つです。何がそんなにいいかというと、締め付けすぎず、しかも胸元をすっきりさせてくれるということです。普通の和装ブラジャーはフィット感がなく、ただ胸元をつぶすだけなので贅肉多めの私にはなんとなく納得がいかなかったのですが、この「くノ一涼子」は胸のサイドのラインを気持ちよくサポートし、脇のお肉もすっぽり包み込み、すっきりスマートなシルエットを作ります。スマートに見えないとの声が聞こえてきそうですが、本当にすっきりします！しかも、肌に触れる部分は全て綿100%。縫い目は肌にあたらない縫製になっていて、敏感肌でも安心。これからの暑い季節でも涼しく快適に過ごせます。「くノ一涼子」バンザイです！！



・・・若女将のつぶやき・・・

栃木県足利市の名物「古印最中」。皮がサクサクでしっかりとした粒あんが大変美味しい最中でございます。2つほどいただきましたので、一つはそのまま食べ、もう一つはアイスクリームと一緒にいただきました。この組み合わせが最高なんです！！もう、夜のデザートとしては罪悪感でいっぱいですが、カロリーなんて忘れてしまうくらい美味しいさ！年に何度出会えるかわからない「古印最中」とアイスクリームの最高なマリナーージュに大満足な夜でした。痩せる気しないわ～

